

令和8年7月6日発行（第202号）

こうじえん

普及センターだより

耕耳苑

いわてアグリ
ベンチャーネット
にも掲載中！

宮古農業改良普及センター TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631
岩泉普及サブセンター TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



地域の食文化を高校生につなぐ！



6月12日、岩手県立宮古水産高等学校において、食の匠を講師とした「食の匠の技公開講座(郷土料理講習会)」が開催されました。本講座は、同校と宮古地方農業振興協議会が主催し、毎年実施しているものです。今年は、食物科1年生22名を対象に、「豆すつとぎ」と「縄文まんじゅう」の調理実習が行われました。

講座では、それぞれの料理の食の匠である斎藤みつ子氏(山田町)、田代久枝氏(岩泉町)が講師を務め、さらに宮古地方食の匠の会から5名が講師補助として参加しました。生徒たちは講師陣の丁寧な指導を受けながら2品を完成させ、最後の盛り付けまでしっかりと取り組んでいました。

試食後の交流会では、「わさびを使った縄文まんじゅうは出来上がりが心配だったが、辛さは強くなく、おいしかった。」「県外出身で岩手の郷土料理は初めてだったが、とてもおいしかった。実家に帰ったら作ってみたい。」「山田町出身で、豆すつとぎなどたくさんの郷土料理が食べられるので地元が好き。」などの感想があり、地域の食文化へ関心が高まった様子がかがえました。



普及センターでは、宮古地方農業振興協議会と連携して今後も食の匠の活動を支援し、地域食文化の伝承・発信・継承を促進していきます。

【担当：藤原】

畑わさび新規就農者相互巡回を開催しました！

宮古地方農業振興協議会は、6月12日に、管内で畑わさび生産に取り組む新規就農者を対象として相互巡回を開催しました。

この相互巡回は、新規就農者同士がお互いの圃場を見学し、意見交換を行うことで、自身の課題を整理し、早期解決につなげることを目的としたものです。

当日は畑わさびの新規就農者8名が参加し、計3か所の圃場を巡回しました。各圃場では、栽培管理や作業工程における様々な工夫が見られ、参加者は自分の圃場との違いを意識しながら、肥培管理、病虫害防除、調製作業など、幅広いテーマで意見交換を行っていました。

参加者からは「他の生産者の圃場を見ることがないため勉強になった」「自分たちのわさびはまだまだ小さいことが分かったからもっと頑張りたい」といった感想が聞かれ、有意義な巡回となったことが伺えました。

普及センターでは今後も宮古地方農業振興協議会と連携し、新規就農者の技術向上と経営安定に向けた支援を行っていきます。



【担当：昆野】

夏季の栽培管理について



令和7年の夏は記録的な暑さにより、農作物等に様々な影響がありました。直近の3か月予報(6月23日気象庁)では、7,8月の気温は、平年並または高い確率ともに40%の予報です。今後の気象情報に注意し、被害の未然防止や軽減を図るための対策を適切に行いましょう。

水 稲	幼穂形成期頃の追肥は登熟期間中の肥切れを抑制し、品質向上に繋がります。窒素成分で1~2kg/10aを目安に追肥を行いましょう。硫安の場合は現物で10kg/10a、NKC17号の場合は現物で12kg/10aが窒素成分2kg/10aです。 また、水稻は出穂後20日間に高温(日中30℃以上、夜間23℃以上)に当たると、白未熟粒が発生し、玄米品質が低下します。出穂後20日間は間断かんがいを実施し、<u>落水期間を必ず設け、土壌を酸化的に保ちましょう。</u><u>水不足の場合には、飽水管理を実施し、地域全体に水が行きわたるようにしましょう。</u>夜間に入水を行うと、稲体の消耗が抑制され、高温障害を軽減できます。【担当:川原田】
野 菜 ・ 花 き	<u>○かん水</u> 高温期のかん水は2~3ℓ/株/日程度が一つの目安です。圃場によって必要なかん水量は異なりますので、pFメーターを活用することでより効果的な水管理ができます。 <u>○換気</u> ツマ面を開放するとより効率的に換気を行うことができます。また、ハウスの肩部分を開放し換気をすることも効果的に温度を下げる効果が期待できます。 <u>○遮光</u> 遮光率30%の遮光資材を屋根ビニール上に被覆することにより、日最高気温が2~5℃程度低下・高温・強日射の抑制の効果が見込め、障害果や落花の減少等が期待できます。 【担当:松浦】
果 樹 (りん ご)	<u>1 夏季管理</u> りんごは、7~8月が翌年の花芽形成期です。日光や薬剤が樹幹内部まで通るように誘引や徒長枝の整理を行い、樹幹内部の受光体制の改善に努めましょう。また、計画的に摘果を進め、早期に適正な着果量にします。 <u>2 日焼け対策</u> 日最高気温がおおよそ32℃以上で、果実に日焼けが発生します。日焼け対策には、着色管理による対策の他、被覆資材があります。 ○被覆資材…極早生品種「紅ロマン」では、日焼け軽減対策として、果実への白色化繊維布(商品名:サンテ®)の被覆が有効です。ただし、収穫まで被覆していると着色に影響するため、収穫の数日前に必ず取り外します。【担当:佐々木】



飼料用作物	牧草の収穫は暑熱期を避けるとともに、収穫時の刈取高さに注意しましょう。 ○オーチャードグラスやチモシー等のイネ科寒地型牧草の生育適温は 20～25℃程度で、これ以上暑くなると生育が停滞し、再生不良、ひどい場合には枯死する恐れがあります。 ○牧草の再生を促すために、刈取り高さ(＝刈り残し高さ)は、最低でも 10 cm(握りこぶし 1 個分)残し、暑熱時は更にやや高めにします。 ○暑熱・干ばつ時の刈取りで、しばらく降雨が見込めない場合は、肥料焼けを避けるため化学肥料の追肥を可能な限り見合わせます。 ○牧草の株が減少している場合、年内ならば 8 月下旬～9 月中旬にオーチャードグラスなどの永年生牧草を追播します。【担当：西田】
畜産	畜舎の暑熱対策は、断熱、遮光、送風、換気が基本です。 ○暑熱ストレスによる飼料摂取量の低下、泌乳量や受胎率の低下など生産性への影響がみられます。 ○屋根に当たった日光による輻射熱で牛舎内の温度が上昇します。ドロマイト石灰や遮熱塗料などを屋根表に塗布することで、輻射熱が低減します。屋根裏への断熱材吹き付けや屋根表への散水(天気の良い日中)も輻射熱の低減に有効です。 ○寒冷紗等で日射しを遮ります。 ○換気扇の設置・増設をします。設置済みの換気扇にホコリが多く付着していると換気効率が落ち、電気代の増加にもつながるので、掃除をして使用します。【担当 西田】

水稻の生育状況と今後の栽培管理について

1 移植時期(5月中旬以降)の気象経過

平均気温は5月第5半旬に平年を下回ったものの全般に平年並みから平年を上回りました。

また、日照時間は5月第6半旬、6月第1、第2半旬を除き、平年を上回りました。

2 生育状況(山田町豊間根の生育診断圃 6/24 調査結果)

草丈及び葉数は平年以下、茎数は平年以上でした。また、葉色は平年並み又は平年以下でした。

品種	草丈			茎数			葉数			葉色 (SPAD)		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (本/㎡)	平年 (本/㎡)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年 (枚)	平年差 (枚)	本年	平年	平年差
あきたこまち	34.6	43.3	▲8.7	600	486	124	8.0	8.5	▲0.5	44.0	43.7	0.3
銀河のしずく	41.9	48.2	▲6.3	612	485	126	7.8	8.5	▲0.7	38.0	40.2	▲2.2

3 今後の栽培管理のポイント

気温や水量を見て、きめ細やかな水管理を行いましょう。幼穂形成期の追肥(窒素成分で1～2 kg/10a)は高温登熟対策に有効です。また、刈り遅れは品質低下に繋がりますので、コンバインの点検等、早めに準備を行いましょう。なお、昨年度の宮古管内の刈取始期は9月 13 日でした(平成 27 年～令和6年の平均は 9 月 22 日)。

【水管理のポイント】

・ 減数分裂期に低温が予想される場合→深水管理

※ 最低気温 17 度以下の場合は水深 15cm 以上

・ 出穂後 20 日間に高温かつ水不足の場合

→飽水管理により土壌の湿潤状態を保つ

※ 基本的には間断かんがいを実施

※ 飽水管理の方法は①1～2cm だけ入水、②足元・溝に

水が残る程度まで自然減水(以降①、②を繰り返す) 【担当：川原田】



図：飽水管理のイメージ

先手の対策で熱中症を防ぐ！

農作業中の熱中症による死亡者は7～8月に集中しており、70代以上の高齢者が大多数を占めています。気象庁の予報によると、今年も平年より暑くなることが予想されており、より一層の対策が必要です。

○ プレクーリング

作業を始める直前に身体を冷やすと、体温上昇を抑制することができます。

あらかじめ冷たい飲み物や冷やしたタオルで体温を低下させましょう。



○ 20分おきの休憩

のどが渴いていなくても、20分おきに毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給をしましょう。

特に塩分と糖分を含んだ経口補水液や微細な氷の粒が入ったアイススラリーがおすすめです。

熱中症の疑いを感じたら、すぐに作業を中断し、応急処置を行ってください。何事も先手の対策が重要です！

【担当:松浦(文)】

農薬危害防止運動 実施中です！(6/1～8/31)

「使用前、周囲よく見て ラベル見て」

6月から8月は、農薬を使用する機会が増える時期です。農薬の使用にあたっては、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理、環境への影響に配慮した農薬の使用等を徹底しましょう。

○ 使用前に、必ず農薬ラベルの確認をする。

(適用作物、使用量・希釈倍数・回数・時期、最終有効年月)

○ 土壌くん蒸剤の使用に当たっての安全確保を徹底する。

○ 住宅地等で農薬を使用する際の周辺への配慮及び飛散防止対策を徹底する。

○ 誤飲・誤食、盗難等防止に向けた適切な保管・管理を徹底する。

【担当:佐々木】

散布作業は、炎天下での長時間は避け、朝夕の涼しい時間を選びましょう（散布者自身の安全も確保！）



令和8年度 宮古地方ワンストップ就農相談会のお知らせ

○ 農業に興味のある方、就農を考えている方へ

宮古地方農業振興協議会担い手部会では、関係機関が連携した就農相談会を開催します。就農に必要な支援制度や情報をまとめて相談できる機会です。

完全予約制のため、参加希望の方は相談日6日前までに、添付の相談申込書(E-mail、FAXによる送付)、もしくは電話により下記までお申し込みください。

○ 申し込み・お問い合わせ先

宮古地方農業振興協議会 担い手部会事務局(宮古農業改良普及センター内)

電話:0193-64-2220 FAX:0193-64-5631 Email:CE0024@pref.iwate.jp

開催日等、その他の詳細な情報につきましては、チラシ(相談申込書付き)を御確認ください。

【担当:澤田(葵)】

(編集後記)

7月号は、夏季の高温に関する記事が盛りだくさんでした。6月は、爽やかな初夏らしい日が多く、また後半は梅雨入りしたこと、暑すぎず過ごしやすい日が多かったですね。これから本格的な夏になりますが、熱中症対策をしっかり行って、夏を乗り切りましょう！(佐々木)